

単元指導計画

1年生活科「みんな、みんな大すきだよ」(全14時間)

《単元の目標》

家の仕事名人や遊び名人を探す活動を通して、家庭生活における家族の役割とそれを支えている家族の仕事の大切さに気づくとともに、自分の役割を見つけ、進んで取り組むことができる。

【関心・意欲・態度】家族や自分の役割を進んで調べ、積極的に生活しようとする。

【思考・表現】家族の分担や役割、家族の中で自分ができることを話し合ったり、絵や文で表現したりすることができる。

【気づき】家庭生活に必要な仕事や役割、家族の中で自分ができることに気づく。

時	ねらい	主な学習活動	評価規準	個のつまずきに対する 主な指導・援助
1	いえのめい人をさがそう。 家の人の仕事や得意なことを調べ、家の人のすばらしいところや家族の役割に気づくことができる。	・家の人の仕事や家の人の得意なことを見つけて、発表しあう。	関心・意欲・態度 家の人の仕事や得意なことを進んで見つけようとしている。	つまずきの様相 家の人の仕事や得意なことに自信が持てない。 評価 挙手 手だて 発表内容から同じ考えを選択する。
2		・家の人の仕事や得意なことを見つけて、絵と文でカードに書く。	思考・表現 家の人の仕事や得意なことを進んでカードにまとめようとしている。	つまずきの様相 家の人の仕事や得意なことをカードに書けない。 評価 見つけたよカード 手だて 内容が決まらない場合は、選択させる。文の書き方がわからない子には、書き出しや文例を提示する。絵が書けない子には見本を提示する。
3		・家の人の仕事や得意なことをクラスみんなにどのように発表するか、考えたり、グループで練習したりする。	思考・表現 家の人の仕事や得意なことを進んで発表しようとしている。	つまずきの様相 発表しようとする内容が決まらない。 評価 発表練習 手だて 内容が決まらない場合は、選択させる。文の読み方がわからない子には、何度も読む練習をさせる。恥ずかしくて声の小さい子は、声を出して練習させる。
4		・家の人の仕事や得意なことをクラスみんなに発表したり、友だちの発表を聞いて家の人には、それぞれ得意なことがあることに気づいたりする。	気づき 家の人にはそれぞれ得意なこと(仕事)があることに気づく。	つまずきの様相 カードが書く視点が定まらない。 評価 仕事発見カード 手だて 発表を聞く視点を与える。(自分の家の人にはない名人を探そうなど)すごいと思ったことを口頭で言ってからカードに書く。
5	いろいろな仕事にチャレンジしよう。	・家族の仕事について、話し合い、自分でやりたいと思う家の仕事を考える。	関心・意欲・態度 家でやってみたい仕事を進んで見つけようとしている。	つまずきの様相 家でやりたい仕事を自己選択できない。家でやりたい仕事を決められない。 評価 チャレンジカード 手だて 話し合いの内容から選択する。
6	家庭で自分ができることを見つけ、進んで取り組むことができる。(仕事やお手伝い)	・(家の人と協力して家でチャレンジしてくる)自分がチャレンジしている仕事(得意なお手伝い)について、発表しあう。	思考・表現 家でチャレンジした仕事を進んで発表しようとしている。	つまずきの様相 家で仕事にチャレンジできなかった。 評価 チャレンジカード 手だて 家の人への協力をお願いする。今までの経験を思い出す。

7		・友だちが、チャレンジしていることについて話し合い、冬休みに家の人とやってみたい仕事、続けたいお手伝いを考える。	気づき チャレンジして知ったことや良かったことに気づく。 関心・意欲・態度 続けたい仕事を進んで見つけようとしている。	つまずきの様相 家でやりたい仕事を自己選択できない。 評価 チャレンジカード 手だて 話し合いの内容から選択する。
8	いろいろな遊びにチャレンジしよう。	・家の人得意な遊びを教えてもらってみんなに紹介する。	思考・表現 家で教えてもらった遊びを進んで発表しようとしている。	つまずきの様相 家で教えてもらった遊びの紹介が自信を持ってできない。 評価 発表 手だて まずは、カードを認め自信をもたせ、隣の友だちに話をする。
9	地域の人、家の人、2年生などと、積極的に関わって遊びを教えてもらおう。	・家の人に教えてもらった遊びをして遊ぶ。	関心・意欲・態度 教えてもらった遊びを楽しむことができる。	つまずきの様相 やりたい遊びがうまくできない。 評価 活動態度 手だて コツを聞いたり、何回もやらせてみたりする。
10		・2年生に伝承遊びを教えてもらって一緒に遊ぶ。	関心・意欲・態度 教えてもらった遊びを楽しむことができる。	つまずきの様相 2年生とうまく関われない。 評価 活動内容 手だて 2年生にどのように話しかけたらいいか、何を聞きたいか、一緒に考える。
11	できたよ発表会をしよう。	・自分ができるようになったことを振り返り発表の準備をする。	思考・表現 できるようになったことを進んで発表しようとしている。	つまずきの様相 発表の仕方が決まらない。 評価 発表カード 手だて いくつかの方法を提示し、選択させる。
12	自分ができるようになった仕事や役割をカード等に表現し発表することができる。さらに、できる喜びを家族の一員として仕事をし続ける力につなげていく。	・自分ができるようになったことを発表し、気づいたことを交流し合う。	気づき 友だちの発表から家族の一員として頑張っている姿を見つけている。	つまずきの様相 友だちががんばっていることを見つけていることができない。 評価 カード 手だて 2～3種類ほど友だちが頑張っている姿の例を示し、どれが一番すごいと思うか選択させてカードに書かせる。
13		・今後自分が家族の一員としてどんな仕事を続けていきたいか考え、より上手にできるように工夫する。	関心・意欲・態度 自分が続けていきたい仕事より上手にできるように意欲的に工夫している。	つまずきの様相 続けたい仕事を自分で決められない。続けたい仕事がかうまくできない。工夫できない。 評価 カード、活動の様子 手だて 続けたい仕事が見つからない子には、家の人がかやってほしいと願っている仕事をやってみようか、と提案してみる。うまくできない子や工夫できない子には、同じコーナーの友だちにコツを教えてもらおうよう声をかける。
14		・仕事をする中で家族の人が、どのように喜んでいるか交流しあい、続けていく意欲につなげる。	関心・意欲・態度 家族の一員としてきちんと役割を果たし、決めた仕事を続けようとする。	つまずきの様相 決めた仕事を続けられない。 評価 チャレンジカード 手だて 家の人のか励ましの言葉を思い出す。友だちのかがんばっている様子聞き、自分もがんばろうとする。